手動二方ボールバルブ取扱説明書

この取扱説明書は、ねじ込み形及びフランジ形でアクチェータのない、手動二方ボールバルブを対象としたものです。

> この取扱説明書は、実際に御使用に成る方のお手元に届く様にお取り計らい下さい。
> お読みになった後は、お手元に置いて御使用下さい。
> 弊社の許可無く改造を行った場合及び、「バルブ」としての使用目的以外の御使用については、責任を負いかねますので御注意下さい。

保管

1. 荷姿のまま屋内に保管し、積み上げ、高低温、多湿、腐食環境は避けて下さい。
   荷崩れによるケガ、損傷、パッキン類の劣化、発錆の原因になります。
2. 受入時に水圧検査等を行ったものは、水分除去・乾燥後、全開（出荷時）の状態で保管して下さい。
   半開の状態で放置すると、シート漏れ、作動不良の原因になります。
3. 口径部の保護蓋は、設置直前まで外さないで下さい。
   異物の混入、接続端部の傷等の原因になります。
4. バルブを踏み台代わりに使用しないで下さい。

運搬

1. 投げ出し、落下、引きずり、倒しなどによりバルブに損傷を与えないで下さい。
2. 重量物は適切な吊り具で、本体の確実な場所（接続フランジのボルト穴等）を吊って下さい。
   吊り方が確実でないと、部品の変形や落下の恐れがあります。

設置

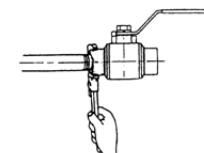
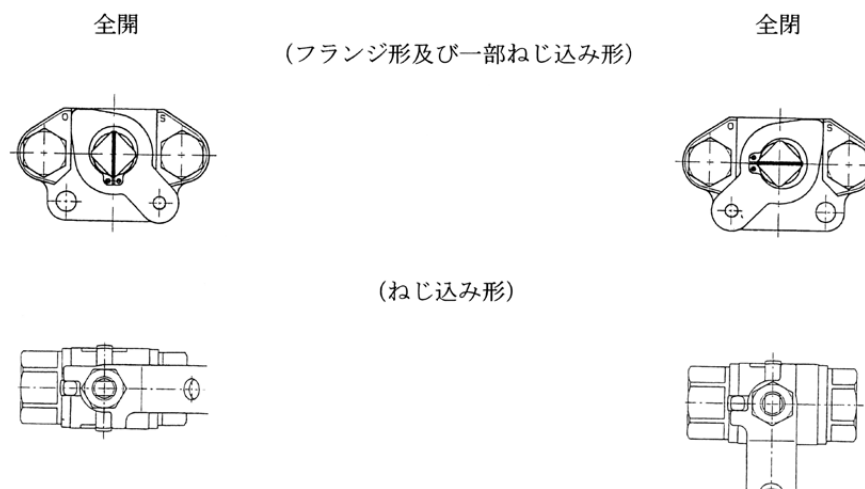
1. バルブを取り付ける前に配管内及び配管機器内の錆、砂、異物等を取り除き、十分洗浄して下さい。
   洗浄が不十分だと、シート漏れ、作動不良などの原因になります。
2. バルブ口径部の保護蓋を外し、接続端部に傷がないこと、弁体が全開になっていることを確認して流れ方向、操作や保守の作業性を考慮して取り付けて下さい。
3. バルブ及び流体仕様に適合したガスケットを使用して、対角上のフランジボルトを交互に数回に分けて、均等に締め付けて下さい。片締めになると外部漏れやガスケット破損の原因になります。（フランジ形のみ）
4. バルブに過大な配管応力がかからないように配管して下さい。作動不良、外部漏れ、バルブ破損の原因になります。
5. ボルトの締め付けはボルトサイズに合った締め付け工具（メガネレンチ等）を使用し、ボルトにはステンレス用焼付き防止剤を塗布して下さい。
6. 本体ボルト、グランドボルトが緩んでいないかを調べ、緩みがある場合には増し締めをして下さい。
7. 配管の耐圧検査は、必ず弁体を半開にして行って下さい。全閉の状態で行うとシート漏れの原因になります。
8. ねじ込み形バルブを配管に取付ける際は、バルブを取り付けるねじが、ＪＩＳに定められたＲ（ＰＴおねじ）、又はＲｃ（ＰＴめねじ）である事を確認し、流体仕様に適合したシール材を使用した上で、手でねじのはめ合い、調心の状態を確かめながら軽く締め付け、その後 図１ のように、管をねじ込む側のバルブ接続端部にレンチを掛けてねじ込んで下さい。

注
1. この取扱説明書の内容を、予告なしに変更する事が有ります。
2. この取扱説明書の内容について、ご不審な点が有りましたら、オーエヌ工業株式会社各営業所までご連絡下さい。

図１　レンチの使い方

図２　全開全閉の区別

全開　　全閉

（フランジ形及び一部ねじ込み形）

（ねじ込み形）

〔裏面も必ずお読み下さい〕

手動二方ボールバルブ取扱説明書

この取扱説明書は、ねじ込み形及びフランジ形でアクチェータのない、手動二方ボールバルブを対象としたものです。

この取扱説明書は、実際に御使用に成る方のお手元に届く様にお取り計らい下さい。
お読みになった後は、お手元に置いて御使用下さい。
弊社の許可無く改造を行った場合及び、「バルブ」としての使用目的以外の御使用については、責任を負いかねますので御注意下さい。

操作

1．ボール弁は全開又は全閉の位置で使用して下さい。
半開の状態で長期間使用すると、ボールシートが変形して、弁座漏れ、作動不良の原因になります。
2．バルブの開閉はステム頂部方向から見て、ハンドルを右回転（時計回転）で閉、左回転（反時計回転）で開になります。開閉操作はハンドルが回らなくなる（ストッパーがあたる）まで確実に操作して下さい。
3．開閉位置はステム頂部の流路指示溝が配管と直角の場合に閉、平行の場合に開となっています。（ねじ込み形でハンドル固定型の場合は、ハンドルの位置で開閉を見分ける事が出来ます。）（図２参照）
4．ハンドルは操作しない時、はずしておいてください。（ハンドル固定型は除く）
ハンドルに物や体が接触して誤動作の原因になります。
5．バルブの誤操作及び誤動作防止のためキーロック構造になっています。
市販の南京錠を使用して御利用下さい。
（ねじ込み形には、キーロック構造でないものが有ります。）
6．ハンドル廻しやパイプ等を使用して過大な力で操作しないで下さい。
ハンドルの破損によるケガやステム、ストッパー等の変形によるシート漏れの原因になります。

保守・点検

1．運転前に合わせボルト、グランドボルト、フランジボルトに緩みがないか点検を行って下さい。
緩みがある場合は、均等に増し締めを行って下さい。
2．運転中にグランド部からの漏れの有無を確認して、漏れのある場合は均等に増し締めを行って下さい。
増し締めを行っても漏れが止まらない時は、パッキンの交換が必要です。（配管フランジ部も同じ）
3．運転中に合わせフランジ部及びボールシート部の漏れの有無を確認して下さい。
漏れのある場合にはパッキン、及びボールシートの交換が必要です。
4．運転中に本体からの漏れの有無を確認して下さい。
漏れのある場合はバルブの交換が必要です。
5．シート及び消耗部品は、オーエヌ工業の純正部品を御使用下さい。
6．運転中にバルブの保守・点検を行う場合、危険な（有毒、可燃性）流体の時は、安全対策を十分とった上で行って下さい。
残圧を含む加圧状態で部品の交換作業は、絶対に行わないで下さい。

取り外し

1．稼働中の他の配管との縁切りを確実に行って下さい。
2．配管に取り付けたまま弁を半開にして、キャビティー内の残圧を０にし、配管内の流体を排出後、バルブを取り外して下さい。
危険な（有毒、可燃性）流体の場合は、配管内の洗浄を十分行って安全対策をほどこした上で、火気及び風通しに注意し、安全な設備内に排出して下さい。
3．バルブのシート及び消耗品の交換等、バルブの整備については、オーエヌ工業株式会社各営業所までお問い合わせ下さい。

注　1．この取扱説明書の内容を、予告なしに変更する事が有ります。
2．この取扱説明書の内容について、ご不審な点が有りましたら、オーエヌ工業株式会社各営業所までご連絡下さい。

〔裏面も必ずお読み下さい〕